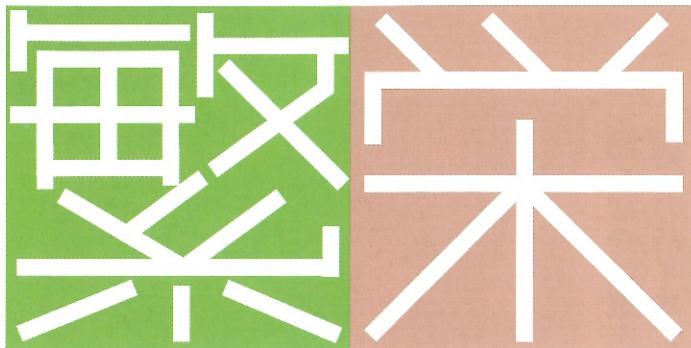


ビジネスリーダーのための情報誌

BESTパートナーズ
三井生命



October

10

vol.449

Special Talk

切り開く 新たな市場を

絶え間ない新商品の開発で

ヤマト株式会社 代表取締役社長 長谷川 豊氏



Monthly feature

Pick Up! Hobby

鉄道模型

新事業として愛好者向けの
サロンを開設

高年齢者の雇用
社会に必要な労働力として
エイジレスで働く社会を



サロン ドゥ サンライズ エキスプレス (東京都・練馬区)

鉄道模型

新事業として愛好者向けのサロンを開設

車両の収集や製作、運転、レイアウト・ジオラマの製作など、さまざまな楽しみ方ができ、コアな愛好者も多い鉄道模型。東京都練馬区で光学用プラスチックなどを製造する株式会社日出の代表取締役社長、稻川善也さんも中学生の頃からの愛好者の1人です。さらには、「同好の士に楽しんでもらえる場を提供したい」と、会社の新事業として、社内に「サロン ドゥ サンライズ エキスプレス」を開設し、サービスを始めています。

サロンには、稻川さん自慢の約11メートル×4・5メートルの鉄道レイアウトを設置。計6路線が走っており、会員になれば、自由に自らの鉄道模型を運転することができます。「運行や停止、速度調整のほか、ポイントの切り替えといった操作も必要で、なかなか難しいもの。1つの線の操作をマスターするだけで半年ほどかかります」と稻川さん。脱線したり、車両同士が衝突したりすることも珍しくなく、油断できません。

このほか、稻川さんのおすすめメー

カーの模型車両も販売しており、東海道新幹線をはじめとした新旧さまざまな鉄道模型の車両が並んでいます。

稻川さんのサロンのレイアウトには線路や駅、トンネルはありますが、山や木や川といった情景はありません。「そこまで作る人もいますが、私は情景を想像しながら運転するのが好きなので、そこまで作り込むことはしません」

一方、鉄道模型車両は旧国鉄時代のものなど、昔の車両ほど人気が高いそうです。稻川さんの一番のお気に入りも旧国鉄時代の1960年代から信越本線の上野→長野間で運行されていた特急「あさま」(181系)。同区間に急勾配の碓冰峠があり、この峠を越える時は『シェルパ』と呼ばれる補助機関車が連結して車両を押し上げるという珍しい運行方法がとられていました」と、稻川さんは解説します。

「小学生の頃、中軽井沢の山荘へ時々出かけていたのですが、横川駅(群馬県安中市)で機関車が連結され、軽井沢駅(長野県北佐久郡軽井沢町)で連結が解かれていたのを思い出します」記憶に刻み込まれた鉄道車両への強い思い入れ。鉄道模型にはまる愛好者の気持ちが少しづつわかつた気がします。



サロンの鉄道レイアウトで、自ら模型を運転する稻川さん。慎重に操作し、お気に入りの車両の姿を見守っている。



稻川さんお気に入りの「あさま」だけでも181系(中央のクリーム色と赤色の車体)や189系(その左)など複数の車両がある。



新幹線(内回りと外回り)と平坦線、勾配線(内回りと外回り)、私鉄線の計6線が配置されているレイアウト。

●サロン ドゥ サンライズ エキスプレス
<http://www.hinode-japan.co.jp/salon-ex/index.html>

